

浅草・浅草寺を取材して



外国語学部 英語英文学科 3年 佐田 舞夏

まず今回の取材地として一つ目に選んだのが浅草である。浅草は東京の人気観光地の一つであり、浅草寺はもちろん、そこにつながる仲見世通りには多くの外国人観光客が訪れており、この日の天気は快晴ということもあり特に多くの外国人が見られた。

浅草は今や東京都の新シンボルとなった「東京スカイツリー」のふもとに位置する。そのため東京都でも特に観光客が多いのであろう。浅草寺が建てられたのは今からおよそ一四〇〇年前の西暦六二八年とされており、東京都で最も古い寺とされている。浅草寺で行われる「三社祭」は今や東京を代表する祭りの一つとなり、私自身も二年前の三社祭を訪ねたが、仲見世通りは人で埋め尽くされ、歩行困難な状況であった。このように行事をはじめ一年中日本人だけでなく多くの外国人が集まり、日本を味わう寺として浅草寺は多くの人に愛されている。

人気の理由として考えられることは二つある。まず、先程も述べたように古い歴史を持つ寺だということだ。浅草寺を中心として発展してきた浅草周辺には日本独特のお好み焼きや、もんじゃ焼きが食べられるお店や、少し歩けば隅田川、浅草

花やしきなどがあり、町全体が活気に包まれている。人力車に乗って町全体で日本を体感するのもよいかもしれない。二つ目として仲見世通りの充実さを取り上げる。メインの仲見世通りをはじめ、仲見世通りにクロスするようにある商店街や、道路沿いの雷門通りには、数えきれない程の店が軒を連ねる。中でも「団子」や「せんべい」、「饅頭」といった日本ならではの菓子が食べられることも人気の理由である。食べ物以外にも「忍者グッズ」や「お面」、「箸」などの日本土産も多くある。インタビュー中に会ったイラン人男性は、母国で忍術を教える先生をしていると話していた。このように日本文化を体感できたり、味わえるこの場所とは外国人観光客にとっても魅力的で、私たち日本人もまた、日本の美点に気付くことができると素敵な場所だった。浅草にこの日訪れていた外国人観光客の出身地は様々で、中国系の方をはじめ、アメリカやメキシコ、台湾、シンガポールなど全世界からここに訪れていることが分かった。浅草寺の前で楽しそうに写真を撮ったり着物レンタルを利用したりと、皆それぞれ浅草を満喫しているように見えた。今後この場所が外国人にとっても日本を感じられる場所であり続けてほしい。

いと思った。

今回の取材では、外国人の観光客の方に、事前に考えた共通の質問を投げかけ、日本のことについてインタビューをした。浅草取材班の取材結果として、メキシコ、オーストラリア、デトロイト、シンガポール、カナダ、タイ、スウェーデン、中国、ロシア、アメリカ、台湾、イラン等、一五組、五〇名ほどの

方々に協力をしていただいた。

取材の結果、気になった点を二つ挙げると、まず外国の方は日本の交通・電車の便利さを称賛していた。取材前、日本の電車は海外に比べ路線も多く複雑なことから、不便な点として挙げられるという予想をしていたのだが、結果は反対に、非常に便利だという感想を頂いた。また、日本の自動販売機も便利だという声が多かった。確かに私たちが生活する中で一日に何度も目にする自動販売機は外国の方にとっては珍しく、その数の多さに驚くのだろうと感じた。何気なく当たり前のように利用しているこれら二つの物は、確かに生活をより便利にしているのだと気付かされた。そし

てもう一つは、外国人の気さくな対応、優しさを実感したことだ。観光に来ている貴重な時間を私たちの取材に協力してくれとてもスムーズな取材ができた。声をかけても断る人はわずかで、どの方も笑顔で、細かくインタビューについて答えてくれた。きっと私たち日本人がインタビューを受ける側であれば、断る方が多いのだと思うが、快く受け入れてくれ、またわかりやすい英語で応対していただいて、取材する側も楽しい時間を過ごすことができた。この先二〇二〇年には東京オリンピックが開催され、ますます外国人とコミュニケーションをとる時代になるであろう。今回の取材で、英語が完璧にわからなくても、とりあえず話すことに挑戦してみることが大切で、私たち日本人は、コミュニケーションを案外難しく考えすぎなのかもしれないと感じた。取材を通して、コミュニケーションの楽しさと、挑戦することの大切さに気付くことができた。

